

# 1930年代の台湾におけるハンセン病問題に関する研究\*

## －「らい予防デー」の成立・展開過程の検討を中心に－

平田 勝政\*\*

A Study on the Problems of Hansen's Disease in Taiwan during 1930s : Focusing on the Development Process of "Day of Leprosy Prevention"

Katsumasa HIRATA\*\*

### 1. 研究の目的・方法・倫理的配慮

筆者は十数年前からなぜ日本では、ハンセン病患者が国際動向から乖離して90年の長きにわたり隔離を強制され続け、取り返しのつかない過ち(人権侵害・人生被害)を生じさせたのか、その乖離の過程と原因についての歴史的解明はいまだ十分とはいえないとの課題意識の下に研究を継続し、その成果を発表してきた<sup>1)</sup>。

本研究は、日本のハンセン病政策とその社会事業(当時「救癩」事業)のあり方に決定的な相違をもたらす隔離監禁主義と治療解放(開放)主義に注目して、この2つの考え方の成立・展開と相克の過程に重点を置いた1920年代研究の成果<sup>2)</sup>を踏まえ、さらに「らい(癩)予防デー」(1931.6.25開始)に注目して1930年代の「救癩」事業において隔離監禁主義が治療解放主義を凌駕していく過程(＝「無癩」化運動の強化・徹底過程)を解明しようとする一連の研究<sup>3)</sup>の続報である。

すでに1930年代の日本(内地)におけるラジオ放送(1931～1940年の毎年6月25日のJOAK)に注目した「らい(癩)予防デー」の成立・展開過程は、拙稿(2016a, 2017)をふまえると、目下の仮説として下記のような時期区分と特徴づけができる。

第1期：1931～1932年の希望社主導の「癩病根絶期成同盟会」による「らい(癩)予防デー」の実施期(第2期の準備期)

第2期：1933～1935年の時期で、「癩予防協会」主導の「癩予防デー」展開期

第3期：1936～1940年の「癩予防デー」(6月25日前後の予防週間)を中心に、「病毒伝播の虞れある患者」(約1万人)の絶対隔離を官民

一体の「無癩(県)運動」として皇紀二千六百年(1940年)まで推進した時期

さらに、第4期として1941～1945年(終戦)における「癩予防デー」の継続・衰退期がある。

上記の仮説を、区域別(第一区～第五区の療養所別、台湾・朝鮮等の旧植民地別)に検証し、区域別の「無癩(県)運動」との関係性を解明しようとするものである。本研究では、旧植民地の「台湾」に注目して上記の課題を検討するものである。

日本統治下の台湾のハンセン病政策についてはすでに清水・平田(2005)<sup>4)</sup>が実証的解明をおこなっているが、本稿では「癩予防デー」に注目して再構成・再検討をおこない、内地延長主義に基づく隔離主義政策が1930年代の台湾における「癩予防デー」を通じてどう持続的に展開されたのかを整理・検討しようとするものである。さらに1920年代の台湾にみられた治療解放主義(拙稿：2009a)が1930年代にどう継承・存続しているのかについても合わせて検討していきたい。

なお、すでに「癩」などの表記に見られるように、人権尊重の見地からすると不適切な用語が使用されているが、以下でも歴史的用語として原文のまま引用することをお断りしておく。

### 2. 台湾における「癩予防デー」の成立・展開過程の概観

まず、基本資料の『台湾総督府癩療養所楽生院年報』と台湾癩予防協会発行の各年度『事業概況書』における「癩予防デー」関係記述を整理したのが表1と表2である。また「台湾日日新報」を中心に「台湾新聞」「高雄新報」等の新聞(1931～1944年の毎年6月25日とその前後の癩予防週

\* Received October 1, 2021

\*\* 鎮西学院大学 現代社会学部 社会福祉学科 Faculty of Contemporary Social Studies, Nagasaki Wesleyan University, 1212-1 Nishieida, Isahaya, Nagasaki 854-0082, Japan

表1 『台湾総督府楽生院・年報』(1931~1943年度)にみる「癩予防デー」の記述一覧

資料名	年.月.日	「沿革」欄における「癩予防デー」の記述	出典(頁)
昭和五・六年統計年報	1931.6.25	記述なし	A-1(3)
昭和七年 年報	1932.6.25	記述なし	A-2(3)
昭和八年 年報	1933.6.25	記述なし	A-3(4)
昭和九年 年報	1934.6.25	記述なし	A-4(4)
昭和十年 年報	1935.6.25	記述なし	A-5(6)
昭和十一年 年報	1936.6.25	全国癩予防デーニ当り上川院長並本院患者音楽部員ニ依ルラヂオ放送ヲ行フ	A-7(5)
昭和十二年 年報	1937.6.24	本院構内ヨリ患者音楽部及学園生徒ヲシテ全国一斉ニ行フ癩予防デーニ当りラヂオ放送ヲ行フ。尚同日台北市公会堂ニ於テ講演会開催並本週間ヲ通ジ癩予防講演ノ為(十六ミリ写真機携行) 台南州下へ係員ヲ出張セシム	A-7(7)
昭和十三年 年報	1938.6.25	癩予防デー、各州庁管轄下ニ予防行事ヲ行フ	A-8(7)
昭和十四年 年報	1939.6.22/ 6.25	台北放送局ニ於テ癩予防座談会放送。本日ヨリ二十九日迄全島癩予防週間行事ニ本院ヨリ職員応援ノタメ出張。/皇太后陛下御誕辰奉祝遥拝式挙行。	A-9(9)
昭和十五年 年報	1940.6.25	皇太后陛下御誕生記念式	A-10(10)
昭和十六年 年報	1941.6.25	皇太后陛下御誕辰祝賀式挙行。癩予防デー、映画会。	A-11(13)
昭和十七年 年報	1942.6.25	皇太后陛下御誕生日ニ当り一同謹ミテ御写真奉拝式並ニ奉祝式ヲ挙行ス。癩予防日ニ付上川院長台湾救癩事業ト大東亜共栄圏建設ニ就テト題シテラヂオ放送ヲ行フ。	A-12(12)
昭和十八年 年報	1943.6.25	皇太后陛下御誕生日ニ当り職員患者一同謹ミテ御写真奉拝式並ニ奉祝式ヲ挙行ス。癩予防日行事挙行。	A-13(4)

注) 出典欄の整理番号は、筆者作成の「日本の植民地下台湾におけるハンセン病問題資料目録」『長崎大学教育学部紀要—教育科学—』第70号(2006年)の44頁の(A)参照

間)の関係記事を整理したのが<資料1>の「台湾日日新報等における『らい予防デー』関係記事目録」である。表1・表2と<資料1>を総合して検討すると、台湾では1933年から1944年まで「癩予防デー」(「癩浄化日」とも表記)が開催されており、1940年代前半(敗戦)まで継続している点が内地以上に徹底しており注目される。

また、1930年代初頭の希望社運動の影響も確認できる。上川豊の「台湾の癩運動」(『日本MTL』第18号,1932年)によれば、1931年6月25日には「内地の運動に呼応して(中略)希望社台湾聯盟主催で台北市、基隆市並びに高雄市等全島的に癩病根絶期成宣伝の会が熱心に催され」たとある。希望社機関誌「希望の日本」第68号(1931.8.1)でも「癩病根絶期成同盟大会を開催したる都市名とその日時及び会場」(8頁)の一覧の中に基隆市の基隆座において2日間(1931.7.27~28)の日程で開催されたことが記されている。また同号「大会漫語」(9頁)には「名画の夕…基隆」とある。

以上を踏まえると、台湾における「癩予防デー」の成立・展開過程は、以下のように時期区

分できる。

- ① 第1期：前史としての希望社台湾聯盟主導の「癩病根絶期成同盟会」の活動期(1931~32年)
- ② 第2期：台湾癩予防協会の設立(1933年)と台湾癩予防法の制定(1934年)による強制隔離の展開期(1933~40年)
- ③ 第3期：大東亜共栄圏建設のための強制隔離の継続・頓挫期(1941~45年)

### 3. 台湾の「癩予防デー」におけるラジオ放送と各団体の活動

#### (1) 台湾のラジオ放送に見る「癩予防デー」

表3に見るように、「癩予防デー」のラジオ放送は1933年から1944年まで確認できる。具体的には、1933.6.25から内地における癩予防協会主催の「癩予防デー」実施に呼応して上川豊楽生院長が「癩予防日に際して」と題する講演を行い、1943.6.25放送の「癩予防日に當りて」(曾田長宗警務局衛生課長)まで途切れることなく毎年ラジオによる講演放送が存続している。

表2 『台湾癩予防協会事業概況書』(1933~1940年度)にみる「癩予防デー」の記述一覧

資料名	年.月.日	「事業執行状況」欄等における「癩予防デー」の記述	出典(頁)
昭和八年事業概況書	1933.6.25	一.宣伝ビラ配布 六月二十五日「癩浄化デー」二.宣伝ビラ五万枚ヲ作成、之ヲ全島配布シタリ。 四.ラヂオ宣伝放送 六月二十五日、本協会囑託樂生院長上川豊氏ノ「癩予防日ニ際シテ」ト題スル講演ヲ台北放送局ヨリ全島ニ放送シタリ、同講演ニ於テハ、皇太后陛下ノ癩患者ニ対スル御仁慈ヲ謹説シ、且ツ「癩浄化デー」ノ意義、癩根絶方策等ヲ説キ、最後ニ台湾癩予防協会ノ使命ヲ述ベタリ。	C-1 (39)
昭和九年事業概況書	1934.6.25	癩浄化日ノ宣伝 毎年六月二十五日ヲ癩浄化日ト定メ全国的ニ予防宣伝行事ヲ行ヒツツアルガ本協会ニ於ケル本年度ノ行事左ノ通。(イ) 宣伝印刷物ノ作製配布、(ロ) 標語募集、(ハ) 専門医ノ招聘及講演会、(ニ) ラヂオ放送 ※(イ)~(ニ)の詳細は省略	C-2 (42~44)
昭和十年事業概況書	1935.6.25	癩予防撲滅宣伝 (1) 映画宣伝 本協会ニ於テハ宣伝用「フィルム」トシテ三五ミリ各三種宛ヲ備ヘ之レヲ協会自身ニテ又ハ各州庁等ニ無償貸与シテ映画宣伝ヲナシタリ「フィルム」ノ種類ハ左ノ通 ※以下資料破損のため(2)以下、不明	C-3 (43) 44~45 破損
昭和十一年事業概況書	1936.6.25	癩浄化日ノ宣伝 毎年六月二十五日ヲ癩浄化日ト定メ全国的ニ予防宣伝行事ヲ行ヒツツアルガ本協会ニ於ケル本年度ノ行事左ノ通。(イ) 宣伝印刷物ノ作製配布、(ロ) 懸賞カード、(ハ) 標語募集、(ニ) 専門医ノ招聘及講演会、(ホ)「ラヂオ」放送 ※(イ)~(ホ)の詳細は省略	C-4 (51~53)
昭和十二年事業概況書	1937.6.24	癩予防日ノ宣伝 畏クモ救癩事業ニ対シ深キ御仁慈ヲ垂レサセ給フ 皇太后陛下ノ御誕辰ノ佳日六月二十五日ヲ癩予防日ト定メ毎年全国的ニ予防宣伝行事ヲ行ヒツツアルガ本協会ニ於テモ之ニ順応シ左ノ通予防宣伝ニ努メタリ。 イ 宣伝用印刷物其ノ他ノ作製配布、ロ 懸賞カード、ハ 標語募集、ニ 癩療養所文芸懸賞募集、ホ「ラヂオ」放送、ヘ 講話会 ※イ~ヘの詳細は省略	C-5 (55~60)
昭和十三年事業概況書	1938.6.25	癩予防日ノ宣伝 畏クモ救癩事業ニ対シ深キ御仁慈ヲ垂レサセ給フ 皇太后陛下ノ御誕辰ノ佳日六月二十五日ヲ癩予防日ト定メ毎年全国的ニ予防宣伝行事ヲ行ヒツツアルガ本協会ニ於テモ之ニ順応シ左ノ通予防宣伝ニ努メタリ。 イ 宣伝用印刷物其ノ作製配布、ロ 懸賞「カード」、ハ「ラヂオ」放送、ニ 講演会 ※イ~ニの詳細は省略	C-6 (50~51)
昭和十四年事業概況書	1939.6.25	癩予防日ノ宣伝 畏クモ救癩事業ニ対シ深キ御仁慈ヲ垂レサセ給フ 皇太后陛下ノ御誕辰ノ佳日六月二十五日ヲ癩予防日ト定メ毎年全国的ニ予防宣伝行事ヲ行ヒツツアルガ本協会ニ於テモ之ニ順応シ左ノ通予防宣伝ニ努メタリ。 イ 宣伝用印刷物ノ作製配布、ロ 講話会 ※イ~ロの詳細は省略	C-7 (49)
昭和十五年事業概況書	1940.6.25	癩予防日ノ宣伝 畏クモ救癩事業ニ対シ深キ御仁慈ヲ垂レサセ給フ 皇太后陛下ノ御誕辰ノ佳日六月二十五日ヲ癩予防日ト定メ毎年全国的ニ予防宣伝行事ヲ行ヒツツアルガ本協会ニ於テモ之ニ順応シ左ノ通予防宣伝ニ努メタリ。 イ 宣伝用印刷物ノ作製配布、ロ 講話会 ※イ~ロの詳細は省略	C-8 (46)

注) 出典欄の整理番号は、筆者作成の「日本の植民地下台湾におけるハンセン病問題資料目録」『長崎大学教育学部紀要-教育科学-』第70号(2006年)の45頁の(C)参照

注目される台北放送局からのラジオ講演は、1934年の光田健輔講演（演題「癩根絶の急務」）、続く1935年の林文雄講演（演題「施政四十年にして尚癩多し」）である。本土（内地）からわざわざ渡台しての講演・視察であり、如何に光田・林が台湾の癩問題の解決を重要視していたかが示されている。本土（東京）からラジオ放送が届くのは1939年の「小島の春」の朗読放送からであり、1940年の吉田茂（厚生大臣）の講演「癩予防事業について」が最後である。

上記の光田・林らの放送を除くと、ラジオ講演も談話も台湾現地の関係者が担当している。ラジオ放送で最も多いのは上川豊楽生院長の6回（1933,1936,1938,1940,1941,1942年）で、特に1941年には「南支南洋の癩」、1942年には「大東亜共栄圏」が演題に登場し、前記の時期区分の第3期を特徴づけている。談話は、主に台湾総督府の衛生課長によるもので1944年まで継続している。

## （2）台湾総督府と台湾癩予防協会の取組

表2と表4に見るように、台湾総督府の外郭団体である台湾癩予防協会は、1933～1936年（1935年は不明）の「癩予防デー」には5万枚～7万5千枚の「宣伝ビラ」を配布し、1936～1938年には「懸賞カード」を5万枚作成して各州庁を通じて「全島小公学校上級生」等に配布している。また1934～1940年（1935年は不明）には、下記のパンフレットを作製配布している。

- ① 1934年『癩から浄めよ我等の国土』（1万部）
- ② 1936年『皇太后陛下の御仁慈と癩の根絶』（2万部）
- ③ 1937年『癩から救へ我等の台湾』（2万部）
- ④ 1938年『仰げ御仁慈はれ癩者』（1万5千部）
- ⑤ 1939・1940年『癩病の常識』（5千部）

上記パンフレットのうち現物が確認できるのは②と③である。

まず②の『皇太后陛下の御仁慈と癩の根絶』（1936年6月15日発行、全22頁）は、下記の5つの「標語」から始まる。

- ① 仰げ御仁慈はれ癩者
- ② 癩は伝染忘るな予防
- ③ 癩者に優しく癩菌に厳しく
- ④ 愛と理解の隔離で絶やせ
- ⑤ 隠すな迷ふな先づ楽生院へ

構成は3本柱で、その主要目次は、下記のとおりである。

- 一. また新たな御仁慈を拜して

- 二. 癩病は伝染する病気（1. 癩は遺伝病ではない／2. 癩の原因は癩菌である／3. 癩はどうして伝染するか／4. 癩病の症状／5. 癩に処する心得／6. 癩も初期なら快くなる／7. 癩療養所楽生院）
- 三. 癩病は隔離法励行に依て根絶が出来る（1. 癩菌の伝染力は緩慢であるが故に根絶し易い／2. 全く根絶し尽した欧州の例／3. 癩隔離に必要な施設の完成／4. 癩救済根絶事業を完成する四つの力） ※下線は筆者

上記下線部（二-6）の「癩も初期なら快くなる」という治療（軽快）の可能性を明示している点は注目されるが、癩問題の解決の基本は「隔離法奨励」による「根絶」にあると強調している。その「根絶」には、①「皇室より下し給ふ救癩への御仁慈の力」、②「政府の熱意ある救癩施設の力」、③「社会よりの大きな愛の力」、④「之に協力する癩者自身の感激の力」の「四つの力」が必要であるとしている。

次にパンフレット③の『癩から救へ我等の台湾』（1937年6月18日発行、全24頁）を見ていくと、構成は、「昭和七年十一月十日大宮御所御歌会御詠歌」、「竹の園生の御恵み癩者に遍し（楽生院長 上川豊）」、「実話 レプラを御披露して歩いた話」の3本柱で、前年の②とは内容が大きく異なるが、皇室の御仁慈が一層強化されている点が特徴的である。「標語」は前年の②より増加し、下記の8つである。（下線は前年と同じ）

- ① 仰げ御仁慈はれ癩者
- ② 癩の浄化は隔離に限る
- ③ 伸ばせ愛の手楽生院へ
- ④ 癩菌を憎んで患者を愛せ
- ⑤ 隠すな迷ふな先づ楽生院へ
- ⑥ 御仁慈畏し癩患救へ
- ⑦ 愛と理解の隔離で絶やせ
- ⑧ 患者には優しく癩菌には厳しく

巻頭に上記の①～⑤の標語が、巻末に⑥～⑧が掲載されている。①と⑥が「皇太后陛下の御仁慈」の標語であり、②と⑦に「隔離」が使用されている。「標語」の一等賞も、1934年が「癩は伝染、隔離が第一」、1936年が「癩の浄化は隔離に限る」であり、「隔離」がキーワードである。

内地と同様に6月25日の皇太后の誕生日を期して台湾総督府癩療養所の「楽生院」に「隔離」する無癩化（浄化）運動が全島規模で展開されたことが示されている。

表3 台湾における「癩予防デー」のラジオ放送・談話等一覧

年	月 日	局名等	ラジオ放送・談話等の担当者名と題目	出典
1933年	6月25日	台北	上川豊（楽生院院長）：癩予防日に際して	「台湾日日新報」第11932号（6面）
1934年	6月25日	台北	高橋秀人（台湾総督府警務局衛生課長）：癩予防デーに際して	台湾癩予防協会『昭和九年度事業概況書』（44頁）
	7月5日	台北	光田健輔（愛生園長）：癩根絶の急務	
1935年	6月25日	台北	林文雄（愛生園医官）：施政四十年にして尚癩多し	「社会事業の友」第81号（45-50頁）
1936年	6月25日	台北	上川豊（楽生院院長）：国辱「癩」を除く力	「万寿果」3巻2号（15-17頁）
1937年	6月25日	台北	森岡二郎（台湾総督府総務長官）：皇室の御仁慈と癩予防事業	「万寿果」4巻3号（5-10頁）
	6月25日	(謹話)	二見警務局長：皇室の御仁慈と癩予防事業	「台湾日日新報」第13381号（5面）
1938年	6月25日	台北	上川豊（楽生院院長）：台湾における救癩運動の現況	「台湾日日新報」第13744号（4面）
	6月25日	(談話)	二見警務局長：日本を癩より浄めよ、けふ癩予防日に	「台湾日日新報」第13744号（7面）
1939年	6月22日	台北	(座談会) 台湾の癩事業に就いて	台湾癩予防協会『昭和十四年度事業概況書』（49頁）
	6月25日	東京	田村秋子朗読：物語「小島の春」	「台湾日日新報」第14107号（4面）
1940年	6月25日	東京	吉田茂（厚生大臣）：癩予防事業について	「台湾日日新報」第14470号（4面）
	6月26日	台北	上川豊（楽生院院長）：台湾救癩事業十周年の癩予防日に際して台湾島民に訴ふ	「万寿果」7巻3号（2-7頁）
1941年	6月25日	台北	上川豊（楽生院院長）：南支南洋の癩と台湾の癩事業	「高雄新報」第1711号（4面）
	6月25日	台北	(朗読)『小島の春』より（岡アナウンサー）	
	6月25日	(談話)	土光衛生課長：昔は遺伝だと思はれた癩は伝染病である	「台湾日日新報」第14833号（3面）
	6月25日	(談話)	上川楽生院院長：癩対策に猛省促す	
1942年	6月25日	台北	上川豊（楽生院院長）：台湾の救癩事業と大東亜共栄圏	「台湾日日新報」第15195号（3面）
	6月25日	(談話)	宮尾衛生課長：癩根絶に一段の努力を	「台湾日日新報」第15195号（4面）
1943年	6月25日	台北	曾田長宗（台湾総督府警務局衛生課長）：癩予防に当りて	「台湾日日新報」第15557号（4面）
	6月25日	(談話)	曾田総督府衛生課長：癩患者を根絶、御仁慈に応へん	「台湾日日新報」第15557号（3面）
1944年	6月25日	(談話)	曾田督府衛生課長：皇太后陛下の御仁慈、応へ奉らん癩の浄化	「台湾新報」第86号（3面）

### (3) 台湾社会事業協会の取組

台湾社会事業協会の機関誌「社会事業の友」は、第67号（1934.6）で「癩予防問題号」、第103号（1937.6）で「癩浄化特輯」、第127号（1939.6）「癩予防特輯：国民浄化」を特集するなど、1934年から1942年まで毎年「癩予防デー」関係論文等を掲載し、内地や朝鮮の社会事業雑誌と比較して突出している。

### (4) 台湾MTLの取組

台湾MTLは、1934年の「癩予防デー」に合わせた光田健輔（国立長島愛生園長）の渡台を契機に発足（1934.6.23 発会式）し、1940年9月に「台湾救癩協会」と改称している。「日本MTL」誌等の台湾MTL関係記事（＜資料2＞の「台湾MTL関係文献目録」参照）によれば1940年（目録No.42）まで活動が確認できる。具体的には、福留

表4 『台湾癩予防協会事業概況書』(1933~1940年度)にみる「癩予防デー」の宣伝物等一覧

資料名	年.月.日	「事業執行状況」欄等における「癩予防デー」の宣伝物等の記述	出典(頁)
昭和八年事業概況書	1933.6.25	一.宣伝ビラ配布 六月二十五日「癩浄化デー」二宣伝ビラ五万枚ヲ作成、之ヲ全島配布シタリ。同ビラハ美濃型二度摺ノモニシテ癩予防根絶ノ思想ヲ普及シ「癩浄化デー」ヲ宣伝強調シタルモノニシテ世界各国ノ癩患者数、我国各都市ノ癩患者分布濃度比較表、ノルウェー国ニ於ケル隔離法施行ニ由ル癩患者減少表ヲモ記載シタルモノナリ。	C-1 (39)
昭和九年事業概況書	1934.6.25	(イ) 宣伝印刷物ノ作製配布 パンフレット「癩から浄めよ我等の国土」一万部、癩予防標語ヲ摺込ミタル宣伝「ビラ」五万枚及同標語入「ポスター」一千五百枚ヲ作成シ之ヲ全島ニ配布セリ。 (ロ) 標語募集 癩予防思想普及ノ為島内各日刊紙ヲ通ジテ宣伝標語ノ募集ヲ為セリ此ノ結果応募句七百四十三句ヲ得、内入選者八名ニ対シ左ノ通り賞金ヲ贈リタリ。 ○一等 二十円一名 癩は伝染隔離が第一。 ○二等 十円宛二名 癩は国辱みんなてたやせ。患者には優しく癩菌には厳しく。 ○三等 三円宛五名 癩から浄めよ我等の国土。一人の癩患者万人の憂。恐れよ癩菌救へよ癩患。癩患者に近寄るは感染の因。愛と救ひの衆生院。	C-2 (42~44)
昭和十年事業概況書	1935.6.25	※資料破損のため不明	C-3 (43) 44~45破損
昭和十一年事業概況書	1936.6.25	(イ) 宣伝印刷物ノ作製配布 「パンフレット」(皇太后陛下の御仁慈と癩の根絶)二万部、ビラ(「癩は伝染されるな予防」ノ標語其ノ他掲載)七万五千枚、「ポスター」(光明皇后御肖像銀色描出)三千枚ヲ作製シ全島の二配布セリ。 (ロ) 懸賞カード 懸賞問題ヲ刷リ込ミタル絵入「カード」五万枚ヲ作製シ全島ニ配布(以下省略) (ハ) 標語募集 癩予防撲滅ニ関スル標語ヲ募集シ応募八百四十八件中入選者七名ニ対シ左ノ通賞金ヲ贈呈セリ。 ○一等 十円一名 御仁慈かしくみ減せ癩病。 ○二等 五円宛二名 癩で汚すな明るい郷土 情の隔離で癩をば絶滅やせ。 ○三等 三円宛四名 血統正しと自慢をするな癩は恐ろしい伝染病。御仁慈畏し癩患救へ。隠すな癩病早期に治せ。癩を憎んで患者を愛せ。	C-4 (52~53)
昭和十二年事業概況書	1937.6.24	イ 宣伝印刷物其ノ他ノ作製配布 「パンフレット」(癩から救へ我等の台湾)二万部、「ポスター」(衆生院建物ノ一部描出)三千枚。 ロ 懸賞カード 癩ニ対スル関心ヲ喚起シ癩予防思想向上ニ資センガ為懸賞問題ヲ刷リ込ミタル衆生院十坪住宅ノ絵入「カード」五万枚ヲ作製シ各州庁ヲ通ジテ全島小公学校上級生其ノ他ニ配布(以下省略) ハ 標語募集 癩ノ予防撲滅及救癩ニ関スル標語ヲ募集シ応募八百九十件中左ノ通入選者句ヲ決定シ夫々賞金ヲ贈呈セリ。 ○一等 十円一名 癩の浄化は隔離に限る。 ○二等 五円宛二名 伸ばせ愛の手衆生院。癩を絶せば御国は光る ○三等 三円宛五名 住宅寄附して隔離を急げ。癩は絶やせる情の隔離で。殺さな癩菌大きな敵。右手に皇恩左手に予防。無癩の衆土は隔離が早道。 ○佳作 一円宛十名 同情と愛の力で癩絶やせ。癩の浄化は隔離と同情。愛あり光あり衆生院。癩は身の敵国の敵。日の丸の輝く島に癩絶やせ。救癩報国御旨に応へん。隔離に勝る予防なし。君が代の響く国から癩絶やせ。日本の国から癩をば絶やせ。	C-5 (55~57)
昭和十三年事業概況書	1938.6.25	イ 宣伝印刷物其ノ他ノ作製配布 「パンフレット」(仰げ御仁慈はれ癩者)一万五千部ヲ作成シ各州庁ヲ通ジテ全島の二配布セリ。 ロ 懸賞「カード」 癩ニ対スル関心ヲ喚起シ予防思想向上ニ資センガ為懸賞問題ヲ刷リ込ミタル衆生院全景ノ絵入「カード」五万枚ヲ作成シ各州庁ヲ通ジテ全島小公学校上級生其ノ他ニ配布(以下省略)	C-6 (50)
昭和十四年事業概況書	1939.6.25	イ 宣伝印刷物ノ作製配布 「パンフレット」(癩病の常識)五千部ヲ作成シ各州庁ヲ通ジテ全島関係各方面ヘ配布シ以テ癩予防思想ノ向上ニ努メタリ。	C-7 (49)
昭和十五年事業概況書	1940.6.25	イ 宣伝印刷物ノ作製配布 「パンフレット」(癩病の常識)五千部ヲ作成シ各州庁ヲ通ジテ全島関係各方面ヘ配布シ以テ癩予防思想ノ向上ニ努メタリ。	C-8 (46)

注) 出典欄の整理番号は、筆者作成の「日本の植民地下台湾におけるハンセン病問題資料目録」『長崎大学教育学部紀要-教育科学-』第70号(2006年)の45頁の(C)参照

榮（樂生院事務官）の台湾通信が1934年から始まり（目録No.1.4.7.11）、1935年には近森一貫（台湾MTL幹事）らによるパンフレット『我等と癩問題』（目録No.8）の発行、1936年の「癩予防デー」に向けての「台湾の癩に関する座談会」の開催など、1935～36年に活発な取組が確認できる。福留榮は、希望社愛知県連盟の幹部として1931年3月と6月の希望社による「癩病根絶期成同盟大会」を中心的に担った人物である。樂生院の職員として、また台湾MTLの関係者として、元希望社運動経験者が台湾の癩問題の隔離主義的解決を担っていたことは注目すべきである。<sup>5)</sup>

#### 4. 台湾の「癩予防デー」における治療解放主義（隔離主義批判）の言説

最後に、上記の隔離主義運動が大勢を占める中、それへの批判的言説（資料1の目録No.57.76.82）を検討する。

まず「台湾日日新報」（1936.6.25）に掲載された無署名記事「癩は恐るべきものか」（目録No.76）から見ていく。そこには、「感染力は頗る鈍い」「離島扱いは妥当ではない」「癩予防の核心は是だ！」＝「小児期の予防が最も大切」であると見出しで強調されている。この記事は、中條資俊（北部保養院長）の1934年論文「癩伝染の径路に就いて」（「公衆衛生」第52巻第6号、『中條資俊伝』所収）の抜粋であるが、中條の治療主義（隔離主義への批判的見解）への賛意が見られる。目録No.82も中條に関係している。

また前記の台湾MTL主催で開催された「癩に関する座談会」（資料2のNo.20）で出席者の於保乙彦は「癩は伝染病と一概にいふが、これには伝染し易い人と比較的伝染し難い人がある（中略）とにかく結核なんかよりは伝染が鈍い（中略）大人よりも子供がうつり易い、それから家族は伝染の機会が多いだけにうつり易いのは肯けるがそれでいて夫婦間には割合うつらぬ」と述べ、上川豊樂生院長も強制収用に関係して「法律上では強制し得るが、事実は余り強制できません」と述べていた。

#### 5. まとめと今後の課題

本研究で解明できたことの第一は、台湾における「癩予防デー」は、本土（内地）以上に継続性（1931～1944年）をもって取り組まれていたこと、第二に、その推進組織は台湾総督府の衛生課、その外郭団体の台湾癩予防協会、樂生院が中核に

あって、台湾MTLや台湾社会事業協会が側面援助の役割を果たしていたこと、第三に人物的には上川豊樂生院長が中心的役割を果たしていること、第四に樂生院の入所者も協力して推進されていたこと、第五に拙稿（2009a）で解明しているように上川院長が1920年代に形成した「患者絶対強制隔離主義」を排した「人道的隔離法」を根底に保持していることの反映として隔離主義的解決を基本としつつも治療解放主義的側面を内包し、「余り強制はできません」と強制隔離に緩やかさを残していたこと、などである。

今後の課題は、①さらに台湾の「癩予防デー」に注目した「無癩」化運動を一層精緻に解明していくこと、②朝鮮や満州における「癩予防デー」の解明作業をおこない台湾との比較（植民地間の比較検討）をおこなうこと、③本稿冒頭に記した本土（内地）の第一区～第五区の区域別の「癩予防デー」の解明作業をおこなうこと<sup>6)</sup>、などである。

#### <注>

- 1) 筆者のハンセン病問題史研究の成果は、下記のとおりである。
  - ①拙稿（2009a）：1920年代の台湾におけるハンセン病問題に関する研究「研究論文集—教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集—」第2巻第2号、1～11頁、2009年3月
  - ②拙稿（2009b）：日本ハンセン病社会事業史研究（第1報）—1922年のディーン博士の来日とその治療解放主義の影響の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第73号、31～42頁、2009年3月
  - ③拙稿（2009c）：「日本MTL（日本救癩協会）と機関誌『日本MTL（風の蔭）』（『近現代日本ハンセン病問題資料集成（補巻16～19）解説・総目次・索引』所収）不二出版、5～17頁、2009年5月
  - ④拙稿（2010）：日本ハンセン病社会事業史研究（第2報）—民間の隔離主義運動の成立・展開過程の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第74号、1～15頁、2010年3月
  - ⑤拙稿（2011）：日本ハンセン病社会事業史研究（第3報）—治療解放主義の系譜（樂生病院）の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第75号、25～34頁、2011年3月
  - ⑥拙稿（2012）：日本ハンセン病社会事業史研究（第4報）—治療解放主義の形成と軽快退

所問題の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第76号,31-41頁,2012年3月

- ⑧拙稿 (2013) : 日本ハンセン病社会事業史研究 (第5報) —1920年代における希望社のハンセン病救済運動の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第77号,35~50頁,2013年3月
  - ⑨拙稿 (2014) : 日本ハンセン病社会事業史研究 (第6報) —希望社地方支部のハンセン病救済運動と十坪住宅の成立—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第78号,pp.41~48, 2014年3月
  - ⑩拙稿 (2015) : 日本ハンセン病社会事業史研究 (第7報) —希望社のハンセン病救済運動と「らい予防デー」の成立—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第79号,pp.65~76, 2015年3月
  - ⑪拙稿 (2016a) : 日本ハンセン病社会事業史研究 (第8報) —「らい予防デー」の成立過程の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第80号,pp.57~65, 2016年3月
  - ⑫拙稿 (2016b) : 九州における希望社運動の研究—希望社九州聯盟の検討を中心に—「九州教育学会研究紀要」第43巻 pp.65~72,2016年8月
  - ⑬拙稿 (2017) : 日本ハンセン病社会事業史研究 (第9報) —ラジオ放送に見る「らい予防デー」の展開過程の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第81号,pp.121~130, 2017年3月
  - ⑭拙稿 (2018a) : 岩下壯一とハンセン病—祖国浄化論の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第82号,pp.73~85, 2018年2月
  - ⑮拙稿 (2018b) : 1930年代の東京におけるハンセン病救済運動と「らい予防デー」 「東京社会福祉史研究」第12号,pp.47~57, 2018年5月
  - ⑯拙稿 (2019) : 後藤静香とハンセン病 「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第83号,pp.73~85, 2019年3月
  - ⑰拙稿 (2020) : 1920年代の朝鮮におけるハンセン病問題に関する研究—志賀潔における治療主義と隔離主義の相克—「長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要」19巻1号,pp.73~86, 2020年12月
- 2) 1920年代研究の主な成果は、注1)の①~⑦と⑱である。

3) 1930年代研究の主な成果は、注1)の⑧~⑱である。

- 4) 清水寛・平田編集・解説『近現代日本ハンセン病問題資料集成(補巻7)台湾のハンセン病政策』,不二出版,全548頁,2005年12月。その基礎作業として平田作成の「日本の植民地下台湾におけるハンセン病問題資料目録」(「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第70号,pp.43~48, 2006年3月)がある。
- 5) 希望社機関誌「希望の日本」第63号附録(1931.3.1発行)掲載の「愛知県聯盟の活動」には、「福留栄」の名前が「県聯盟の新陣容」中の幹部名に確認できる。
- 6) すでに第二区(北海道・東北地方)については、拙稿「1930年代のハンセン病社会事業に関する研究(第3報)—北海道・東北地方の「らい予防デー」と北部保養院(中條資俊)の役割の検討—」(『社会事業史学会第44回大会報告要旨集』42~43頁、2016年5月14日発表、於・石巻専修大学)で検討作業をおこなっている。また注1)の⑱は、第一区(関東地方等)を東京に限定して解明したものである。

(付記) 本研究は、社会事業史学会第43回大会(2015年5月9日、於・愛知県立大学長久手キャンパス)において発表した「1930年代のハンセン病社会事業に関する研究(第2報)—台湾における「らい予防デー」の成立・展開とその影響の検討—」(『社会事業史学会第43回大会報告要旨集』79~80頁)を改題し、当日発表資料を若干修正・加筆してまとめたものである。さらなる資料発掘と補強が必要であるが、コロナ禍により調査不可能となり果たせなかったことを遺憾とする。他日を期したい。



<資料1>台湾日日新報(1919~1944)等における「らい予防デー」関係記事目録

No.	著者名	記事名	紙名・号数	面	発行年月日	備考
1		皇太后陛下から御下賜金	「台湾日日新報」第11708号	7面	1932(S.7). 11.11	
2		官民協力一致して癩の撲滅に尽さん(平塚総務長官の謹話)	「台湾日日新報」第11709号(夕刊)	1面	1932(S.7). 11.12	
3		癩患者を慰めよ(皇太后陛下の御歌)	「台湾日日新報」第11752号	11面	1932(S.7). 12.25	
4		癩療養所長会議、16日から開催、督府から森田課長出席	「台湾日日新報」第11767号(夕刊)	2面	1933(S.8). 1.10	
5		台湾の癩病も卅年で根絶出来る(森田衛生課長の談)	「台湾日日新報」第11778号	7面	1933(S.8). 1.21	
6		(漢文) 癩病予防挙国協力台湾按卅年根絶	「台湾日日新報」第11779号(夕刊)	4面	1933(S.8). 1.22	
7		癩予防と療養施設の拡充が必要(森田衛生課長語る)	「台湾日日新報」第11791号	7面	1933(S.8). 2.3	
8		癩予防協会の設立打合せ(全島警務部長を招集)	「台湾日日新報」第11811号	2面	1933(S.8). 2.23	
9		ティラー博士寄附を集む	「台湾日日新報」第11811号	7面	1933(S.8). 2.23	
10		癩予防協会台湾にも創設	「台湾日日新報」第11828号	7面	1933(S.8). 3.12	
11		癩予防協会創立の要旨	「台湾日日新報」第11831号	2面	1933(S.8). 3.15	
12		(社説) 台湾と癩予防協会の創設	「台湾日日新報」第11837号	2面	1933(S.8). 3.21	
13		楽山園17棟竣工	「台湾日日新報」第11847号(夕刊)	2面	1933(S.8). 3.31	
14		癩患者のために一生を捧げる	「台湾日日新報」第11873号(夕刊)	2面	1933(S.8). 4.27	
15		癩予防協会発起人会	「台湾日日新報」第11881号	7面	1933(S.8). 5.5	
16		(漢文) 癩予防協会発起人会	「台湾日日新報」第11882号	8面	1933(S.8). 5.6	
17		台湾癩予防協会、けふ創立発起人会	「台湾日日新報」第11887号	11面	1933(S.8). 5.11	
18		癩予防協会創立発起人会	「台湾日日新報」第11888号	7面	1933(S.8). 5.12	
19		(漢文) 癩予防協会創立発起人会	「台湾日日新報」第11889号(夕刊)	4面	1933(S.8). 5.13	
20		(社説) 天刑病とその根絶運動	「台湾日日新報」第11899号	2面	1933(S.8). 5.13	
21		癩患者の家族を保護、特に小児の感染を積極的に防止	「台湾日日新報」第11911号	7面	1933(S.8). 6.4	
22		癩予防宣伝、癩予防協会が廿五行ふ	「台湾日日新報」第11927号	7面	1933(S.8). 6.20	
23		(ラヂオ欄) 夜間の部【七・〇〇】講演(台北) 救癩記念日に際して…台湾楽生院長上川豊	「台湾日日新報」第11932号	6面	1933(S.8). 6.25	
24		(ラヂオ番組紹介) 癩予防日に際して、夜七時より、台湾楽生院長上川豊	「台湾日日新報」第11932号	6面	1933(S.8). 6.25	
25		癩予防費の寄附募集	「台湾日日新報」第11969号	3面	1933(S.8). 8.1	
26		嘉義市に於て癩予防協会設立の為寄附募集	「台湾日日新報」第11972号	3面	1933(S.8). 8.4	
27		(台中電話) 癩予防協会へ寄附	「台湾日日新報」第11973号	3面	1933(S.8). 8.5	
28		癩予防協会設立寄附金集る *台南州	「台湾日日新報」第11978号	3面	1933(S.8). 8.10	

29	會文郡と癩基金、非常の好成績 *台南州	「台湾日日新報」第11991号	3面	1933(S.8). 8.23
30	大阪外島保養院の患者二十名が脱走、院内の 新旧思想の衝突が原因、警察部では所長の責 任を追及	「台湾日日新報」第12004号 (夕刊)	2面	1933(S.8). 9.5
31	癩病患者の刑務所、今議会に提案	「台湾日日新報」第12005号	7面	1933(S.8). 9.6
32	癩予防寄附金、台南は予定額を既に突破した	「台湾日日新報」第12033号	3面	1933(S.8). 10.5
33	(漢文) 府立療養所樂生院創立三回記念式	「台湾日日新報」第12045号 (夕刊)	4面	1933(S.8). 10.17
34	台中の癩予防基金募集の成績、九月末迄に 二万六千六百円集る	「台湾日日新報」第12052号	3面	1933(S.8). 10.24
35	(漢文) 癩協寄附 基隆市署磋商計五千七百円	「台湾日日新報」第12097号 (夕刊)	4面	1933(S.8). 12.8
36	(漢文) 癩療養所樂生院、謀大拡張増築院舎	「台湾日日新報」第12184号 (夕刊)	4面	1934(S.9). 3.6
37	樂山園の落成式、愈よ三十日に挙行	「台湾日日新報」第12200号 (夕刊)	2面	1934(S.9). 3.22
38	全島唯一の私立癩病院、樂山園の落成式	「台湾日日新報」第12209号	7面	1934(S.9). 3.31
39	竣工した樂山園	「台湾日日新報」第12210号 (夕刊)	2面	1934(S.9). 4.1
40	(漢文) 淡水私立癩病院、樂山園落成式、石垣 総督代理等臨席	「台湾日日新報」第12210号 (夕刊)	4面	1934(S.9). 4.1
41	癩予防デーに光田氏を招聘	「台湾日日新報」第12279号	2面	1934(S.9). 6.10
42	癩予防法に一部の修正、愈よ本島に施行	「台湾日日新報」第12282号 (夕刊)	2面	1934(S.9). 6.13
43	台南州の癩予防宣伝、各自注意が肝要	「台湾日日新報」第12291号	2面	1934(S.9). 6.22
44	癩病患者への温い情の手、台湾M T L 生る、 二十三日「映画と講演の夕」	「台湾日日新報」第12291号	2面	1934(S.9). 6.22
45	(漢文) 【台南】 癩病浄化	「台湾日日新報」第12294号		1934(S.9). 6.25
46	光田氏の視察日程	「台湾日日新報」第12302号	7面	1934(S.9). 7.3
47	癩予防講演と映画の夕	「台湾日日新報」第12302号	7面	1934(S.9). 7.3
48	癩予防思想の不徹底さに驚く、光田氏本社を 訪ねて語る	「台湾日日新報」第12303号	7面	1934(S.9). 7.4
49	(漢文) 防癩宣伝講演活写	「台湾日日新報」第12303号	8面	1934(S.9). 7.4
50	(漢文) 癩病救療積極進出 以収容千名為目標 光田氏建議平塚長官	「台湾日日新報」第12307号	12面	1934(S.9). 7.8
51	(社説) 癩予防に対する新認識、各方面とも今 一段の努力を	「台湾日日新報」第12310号	2面	1934(S.9). 7.11
52	癩患者の日常生活調査、予防法実施準備の為	「台湾日日新報」第12338号	3面	1934(S.9). 8.8
53	(漢文) 樂生院増築院舎 欲再収容百十名 作 本島式使永久居住	「台湾日日新報」第12338号	3面	1934(S.9). 8.8
54	(社説) 癩予防法の精神を活かせ、療養所設置 の歩武を進めよ	「台湾日日新報」第12421号	2面	1934(S.9). 10.30
55	皇太后陛下の御仁慈、上川樂生院長に賜謁、 重ねかさねの光榮に感激する本島癩予防協会 の奮起	「台湾時事新報」第32号	5面	1935(S.10). 2.1
56	癩予防徹底策、未感染児童の保育所を開設、 新荘の樂生院内に新築、先づ廿名を収容	「台湾時事新報」第32号	5面	1935(S.10). 2.1

57		「清き一票を与えよ」癩患者四千が決議、比島独立方案人民投票に付、総督に申請しセッション	「台湾日日新報」第12616号	7面	1935(S.10).5.16	○
58		(漢文) 癩未感染児童保育所、廿九日落成式	「台湾日日新報」第12627号	12面	1935(S.10).5.27	
59		意義深き癩浄化日来る、皇太后陛下御誕生日の六月二十五日を記念日に、台湾に於ても各種催し	「台湾時事新報」第50号	7面	1935(S.10).6.7	
60		“台湾の癩”座談会、本社台北支局が後援、十六日夜台北朝日寮で	「大阪朝日新聞(台湾版)」第19620号	5面	1935(S.10).6.9	
61		癩の権威者林博士来台、全島を視察講演	「台湾日日新報」第12644号(夕刊)	2面	1935(S.10).6.12	
62		(嘉義だより) 林博士講演	「台湾経世新報」第1246号	7面	1935(S.10).6.23	
63		癩予防講演、廿四日林博士が	「台湾日日新報」第12656号(夕刊)	2面	1935(S.10).6.25	
64		(社説) 台湾に於ける癩根絶の方策、現在の隔離数僅に一割のみ	「台湾日日新報」第12656号	2面	1935(S.10).6.25	
65		(ラジオ) 夜間の部【六・三〇】講演(台北) 施政四十年にして尚ほ癩多し…医博林文雄	「台湾日日新報」第12656号	6面	1935(S.10).6.25	
66		台湾M T L主催、本社台北支局後援、癩に関する座談会①、白熱する人道愛、畏き御仁慈の御歌を奉唱し熱心に意見開陳	「大阪朝日新聞(台湾版)」第19636号	5面	1935(S.10).6.25	
67		台湾M T L主催、本社台北支局後援、癩に関する座談会②、大拡充を要する本島の施設現状、官民一致の援助が急務	「大阪朝日新聞(台湾版)」第19637号	5面	1935(S.10).6.26	
68		重症癩患者を愈よ強制収容、五十名だけ月末迄に	「台湾日日新報」第12674号	7面	1935(S.10).7.13	
69		(漢文) 癩病患者五十名、至月末強制収容	「台湾日日新報」第12675号(夕刊)	4面	1935(S.10).7.14	
70		楽生院患者にめぐみの手	「台湾日日新報」第12679号	5面	1935(S.10).7.18	
71		癩患者の十坪住宅、楽生院内に落成、山本榮喜氏の寄附で(写真は十坪住宅光山舎)【写真入】	「台湾日日新報」第12768号	5面	1935(S.10).10.16	
72		癩病予防実話懸賞	「台湾日日新報」第12811号	5面	1935(S.10).11.2	
73		脱走したレプラ患者、新竹で発見する	「台湾日日新報」第12958号(夕刊)	2面	1936(S.11).4.25	
74		癩予防宣伝の標語募集	「台湾日日新報」第12986号(夕刊)	2面	1936(S.11).5.23	
75		(ラジオ) 夜間の部【六・三〇】講演と音楽(台北) (癩浄化日に因みて) 台北市宮前町馬偕病院より	「台湾日日新報」第13019号	4面	1936(S.11).6.25	
76		癩は恐るべきものか、感染は体質の素因による、小児期の予防	「台湾日日新報」第13019号	6面	1936(S.11).6.25	○
77		怖ろしい癩病のけふ予防デー、督府、地方協力して宣伝、講演、映画で注意喚起	「台湾日日新報」第13019号	11面	1936(S.11).6.25	
78	神原 正孝	総督府癩療養所楽生院を訪ふ(上)	「台湾時事新報」第103号	4面	1936(S.11).6.26	
79	神原 正孝	総督府癩療養所楽生院を訪ふ(下)	「台湾時事新報」第104号	6面	1936(S.11).7.3	
80		楽生院患者逃亡、捕まらず当局大狼狽	「台湾日日新報」第13087号(夕刊)	2面	1936(S.11).9.1	
81		楽生院の恩賜治療室完成、八日に落成式挙る	「台湾日日新報」第13091号(夕刊)	2面	1936(S.11).9.5	
82		癩青年全快し天晴れ甲種合格、中條博士の研究みごと奏功、“天刑、不治”を解消	「台湾日日新報」第13094号	11面	1936(S.11).9.8	○
83		レプラ研究の旅、はるばるとエジプトへ、淡水のティラー牧師夫妻	「大阪朝日新聞(台湾版)」第19943号	5面	1937(S.12).5.1	

84		二十五日を期し癩予防の大宣伝、府衛生課と協会共同主催で全島で各種の催し	「台湾日日新報」第13380号	11面	1937(S.12).6.24
85		癩患者に幸あれ、癩予防日の諸催し	「大阪朝日新聞(台湾版)第19998号	5面	1937(S.12).6.25
86		(ラヂオ) 皇室の御仁慈と癩予防事業(五・〇〇台北から)総務長官 森岡二郎	「台湾日日新報」第13381号	4面	1937(S.12).6.25
87		皇室の御仁慈と癩予防事業(二見警務局長謹話)	「台湾日日新報」第13381号	5面	1937(S.12).6.25
88		宿命への抗争に喘ぐ、癩患者の根絶を期せ	「台湾時事新報」第153号	2面	1937(S.12).6.25
89		癩予防日と行事、懸賞課題等発表さる	「台湾時事新報」第153号	5面	1937(S.12).6.25
90		癩予防デーに映画講演の夕	「台湾日日新報」第13382号	11面	1937(S.12).6.26
91		癩病患者に菓子を贈る、けふ慰問隊を組織し(案内)講演、舞踊、独唱、映画の夕	「台湾日日新報」第13382号(夕刊)	2面	1937(S.12).6.26
92		南投で癩浄化	「台湾日日新報」第13742号	5面	1938(S.13).6.23
93	上川 豊	日本は世界第三位の癩病国-癩救療事業と日支提携(一)-	「台湾日日新報」第13744号	3面	1938(S.13).6.25
94		(ラヂオ)夜六・三五 講演(台北)癩浄化日台湾に於ける救療事業の現況…医学博士・上川豊	「台湾日日新報」第13744号	4面	1938(S.13).6.25
95		日本を癩より浄めよ、けふ癩予防日に(二見警務局長談)	「台湾日日新報」第13744号	7面	1938(S.13).6.25
96		癩予防宣伝カードの入選者	「台湾日日新報」第13745号(夕刊)	2面	1938(S.13).6.26
97	上川 豊	支那の救療事業は自衛上傍観を許さず-癩救療事業と日支提携(二)-	「台湾日日新報」第13745号	3面	1938(S.13).6.26
98	上川 豊	日本医学の名誉にかけて癩病を根絶させよ-癩救療事業と日支提携(三)-	「台湾日日新報」第13747号	3面	1938(S.13).6.28
99		大宮御所より楓の苗を賜ふ、衆生院・外地初の光榮	「大阪朝日新聞(台湾版)第20694号	5面	1939(S.14).5.28
100		無癩州愈よ実現、台南州で徹底的調査	「台湾日日新報」第14106号	5面	1939(S.14).6.24
101		(ラヂオ)夜八・二五 物語(東京)小島の春(小川まさ子作・岸田國土編輯)田村秋子	「台湾日日新報」第14107号	4面	1939(S.14).6.25
102		澎湖庁下から癩患者一掃、十七名を病院に収容	「台湾日日新報」第14111号	5面	1939(S.14).6.29
103		癩を絶滅、台南州の行事予定	「台湾日日新報」第14461号	5面	1940(S.15).6.16
104		癩予防の宣伝、台南州の実施要領	「台湾新民報」第3376号	7面	1940(S.15).6.21
105		癩予防デー、新化郡の宣伝行事	「台湾新民報」第3378号	5面	1940(S.15).6.23
106		あすは癩予防デー、台北州下の宣伝行事	「台湾新民報」第3380号(夕刊)	2面	1940(S.15).6.25
107		けふ癩予防の日	「台湾日日新報」第14470号	7面	1940(S.15).6.25
108		癩予防デー、けふ旗山街で行事	「台湾新民報」第3380号	5面	1940(S.15).6.25
109		けふは癩予防デー、旗山街の宣伝実施要項	「高雄新報」第1347号	4面	1940(S.15).6.25
110		癩予防の撲滅へ! 忌しい病毒を絶て、大々的宣伝普及を実施	「高雄新報」第1347号	7面	1940(S.15).6.25
111		(ラヂオ欄) 講演(東京) 癩予防事業に就て厚生大臣 吉田茂	「高雄新報」第1347号	8面	1940(S.15).6.25
112		癩予防デー、けふ南北両署の催し	「台湾新民報」第3381号(夕刊)	2面	1940(S.15).6.26

113	上川 豊	台湾救癩事業十周年の癩予防日を迎へて	「台湾新民報」第3381号	4面	1940(S.15). 6.26	
114	上川 豊	(ラジオ) 台湾救癩事業十周年の癩予防日を迎へて	「高雄新報」第1348号	8面	1940(S.15). 6.26	
115		(広告) 小島の春	「台湾新民報」第3384号	1面	1940(S.15). 6.29	
116		公立癩療養所を国立に移管、癩徹底的撲滅に乗出す	「高雄新報」第1694号	2面	1941(S.16). 6.9	
117		救癩に温い手、国立になる療養所	「台湾新聞」第13771号	5面	1941(S.16). 6.10	
118		廿五日は癩予防日、全島各地で癩撲滅宣伝	「台湾日日新報」第14828号 (夕刊)	2面	1941(S.16). 6.21	
119		全島癩予防宣伝、来二十五日を期し	「高雄新報」第1708号	2面	1941(S.16). 6.22	
120		“癩”を絶やせ、屏東座談会開催	「高雄新報」第1709号	3面	1941(S.16). 6.23	
121		癩予防の宣伝、廿六日、全島一斉に行事	「台湾日日新報」第14831号	3面	1941(S.16). 6.24	
122		けふ癩予防日／楽生院で記念式と患者慰安／ (ラジオ) 午後六：三〇 講演・上川豊	「台湾日日新報」第14832号	3面	1941(S.16). 6.25	
123		けふ癩予防日、癩は国家の汚辱だ、警務局衛生課長談	「台湾新聞」第13785号	5面	1941(S.16). 6.25	
124		(ラジオ欄)上川豊：南支南洋の癩と台湾の癩事業／朗読(台北)『小島の春』より 岡アナウンサー	「高雄新報」第1711号	4面	1941(S.16). 6.25	
125		昔は遺伝だと思はれた癩病は伝染病である (土衛衛生課長談)	「台湾日日新報」第14832号 (夕刊)	3面	1941(S.16). 6.26	
126		癩対策に猛省促す(上川楽生院長は語る)	「台湾日日新報」第14832号 (夕刊)	3面	1941(S.16). 6.26	
127		癩根絶に一段の努力、救済浄化宣言の日、宮尾衛生課長語る	「台湾日日新報」第15195号	4面	1942(S.17). 6.25	
128		御仁慈に副ひ奉り、癩根絶に総力を挙ぐ(警務局宮尾衛生課長談)	「台湾新聞」第14149号	3面	1942(S.17). 6.25	
129		(ラジオ欄)台湾救癩事業と大東亜共栄圏(台北) 楽生院長 上川豊	「高雄新報」第2073号	4面	1942(S.17). 6.25	
130		癩病は楽生院へ、迷ふな鳳山の予防日	「高雄新報」第2074号	4面	1942(S.17). 6.26	
131		癩予防宣伝日、高雄市、知識普及諸行事	「台湾新聞」第14152号(夕刊)	2面	1942(S.17). 6.28	
132		無癩台南州建設、州当局早期発見に努力	「台湾日日新報」第15323号	4面	1942(S.17). 11.1	
133		愛の力で癩病掃蕩、高雄市あすの予防日に種々の催	「高雄新報」第2434号	3面	1943(S.18). 6.24	
134		癩患者を根絶、御仁慈に応へん(曾田総督府衛生課長談)	「台湾日日新報」第15557号	3面	1943(S.18). 6.25	
135		(ラジオ)夜、六・三〇 癩予防日に当りて(東京) 警務局衛生課長 曾田長宗	「台湾新聞」第14510号	2面	1943(S.18). 6.25	
136		御仁慈に應へ奉り、癩浄化に協力邁進(癩予防日、警務局衛生課長談)	「台湾新聞」第14510号	3面	1943(S.18). 6.25	
137		癩予防に数々の行事／匿名の帝大生患者に雑誌	「台湾日日新報」第15558号 (夕刊)	2面	1943(S.18). 6.26	
138		根絶せよ癩病、御仁慈に應へ奉らん(警務局衛生課長談)	「高雄新報」第2437号	2面	1943(S.18). 6.27	
139		皇太后陛下の御仁慈、応へ奉らん癩の浄化(曾田衛生課長謹話)	「台湾新報」第86号	3面	1944(S.19). 6.25	
140		畏し皇太后陛下、癩患者に有難き思召	「台湾新報」第88号	3面	1944(S.19). 6.27	

## &lt;資料2&gt;台湾MTL関係文献一覧

No.	著者名	論文名	誌名・巻号	頁	発行年月	備考
1	福留 栄	(地方通信) 台湾より	「日本MTL」第39号	8	1934(S.9)-5	
2		癩患者への温い情の手、台湾MTL生る、二十三日、「映画と講演の夕」	「台湾日日新報(夕刊)」第12292号	2面	1934(S.9)-6.23	
3		台湾、MTL発会式	「日本MTL」第41号	8	1934(S.9)-7	
4	福留 栄	所感/台湾通信	「日本MTL」第42号	8	1934(S.9)-8	
5		台湾MTL音楽と講演の夕	「日本MTL」第46号	7	1934(S.9)-12	
6	原 忠雄 (台湾MTL 会員)	「恵の日」に就て(癩問題)	「社会事業の友」第74号	159-164	1935(S.10)-1	
7	福留 栄	大愛奇跡をつくる-台湾楽山園の発展-	「日本MTL」第48号	4	1935(S.10)-2	
8	台湾MTL	『我等と癩問題』(台湾MTLパンフレット)	台湾MTL	全12 頁	1935(S.10)-?	
9		台湾MTL近況	「日本MTL」第52号	8	1935(S.10)-6	
10	林 文雄	台湾・沖繩MTLの活動	「日本MTL」第54号	1-2	1935(S.10)-8	
11	福留 生	台湾MTLの諸君へ	「日本MTL」第56号	12	1935(S.10)-10	
12		台湾セクション-慰問袋-	「日本MTL」第58号	8	1935(S.10)-12	
13	近森幹事	台湾MTL近報	「日本MTL」第60号	9	1936(S.11)-2	
14		癩療養所の現況と拡張	「日本MTL」第61号	2 & 8	1936(S.11)-3	
15		台湾MTL	「日本MTL」第62号	7	1936(S.11)-4	
16	上川 豊	台湾台北州下五結庄の癩調査	「日本MTL」第63号	2-3	1936(S.11)-5	
17		台湾MTL	「日本MTL」第64号	8	1936(S.11)-6	
18	H・H生	台湾MTL主催:台湾の癩を語る座談会傍聴記*1936.6.16開催	「社会事業の友」第92号	81-86	1936(S.11)-7	
19		台湾予防デー	「日本MTL」第65号	8	1936(S.11)-7	
20		台湾に於ける予防日運動報告(巻頭写真)	「日本MTL」第66号	8	1936(S.11)-8	
21		台湾MTLの遊佐氏歓迎会	「日本MTL」第67号	9-10	1936(S.11)-9	
22		台北楽生院恩賜治療室落成	「日本MTL」第68号	8	1936(S.11)-10	
23		台湾MTL	「日本MTL」第70号	8	1936(S.11)-12	
24		台湾MTL	「日本MTL」第73号	8	1937(S.12)-2	
25		台湾MTL-台湾予防デー	「日本MTL」第77号	7	1937(S.12)-8	
26		台湾MTLより 地方通信	「日本MTL」第78号	8	1937(S.12)-9	
27		台湾MTL 地方通信	「日本MTL」第80号	8	1937(S.12)-11	

28	KO生 (入園者)	台湾楽生院便り	「日本MTL」第84号	8	1938(S.13)-3
29		人生の勝利者たれ	「日本MTL」第85号	6-7	1938(S.13)-4
30		台湾MTL報告	「日本MTL」第95号	8	1939(S.14)-2
31		台湾MTL打台会	「日本MTL」第98号	5	1939(S.14)-5
32		新荘楽生院に講堂新築さる	「日本MTL」第98号	8	1939(S.14)-5
33	福富 栄	海南島と癩	「日本MTL」第105号	2	1939(S.14)-12
34		初めて台湾に大風子実る	「日本MTL」第107号	2	1940(S.15)-2
35		台湾だより	「日本MTL」第108号	7	1940(S.15)-3
36	須田亀十郎	台湾に於ける大風子栽培	「日本MTL」第109号	3	1940(S.15)-4
37		台湾MTL 地方通信	「日本MTL」第114号	6	1940(S.15)-10
38	上川 豊	南支南洋及び台湾の癩(1)	「日本MTL」第126号	2	1941(S.16)-10
39	上川 豊	南支南洋及び台湾の癩(2)	「日本MTL」第127号	3	1941(S.16)-11
40	上川 豊	南支南洋及び台湾の癩(3)	「日本MTL」第128号	2	1941(S.16)-12
41	福 留 生	大風子は実る台湾	「日本MTL」第139号	5	1942(S.17)-11

